



【写真2】前列左から3番目が富安



【写真1】九州帝国大学箱崎キャンパス内の標本見本園

今回紹介する写真は、富安道義（1887〜1960年）のアルバムに残っていた2枚の写真です。

富安は柳川瀬高町（現京町）の江戸時代から続く商家の長男として生まれ、大正9（1920）年からは柳河郵便局の局長を務めました。その一方で、水彩画やパステル画を中心とした美術活動を精力的に行いました。中央画壇ともつながりを持った富安は、水郷社や柳河パステル画会などの美術団体を立ち上げるなど、柳川における美術普及の中心的な人物でした。

柳川で活動していた富安でしたが、昭和12（1937）年に大分県別府市に転居します。富安のアルバムには、別府転居後の写真が多く残されています。【写真1】は、九州帝国大学箱崎キャンパス内の標本見本園での記念写真です。この園は、同大学農学部で造園学を教えていた永見健一助教授が昭和7年に造園したものです。別府転居後の富

富安道義のアルバム

市史編さん係 白石 直樹

安は、これまでの美術活動に加えて、永見助教授と親交を深めて作庭活動にも取り組みました。この写真は、永見助教授をはじめ造園学に携わる人々と撮影したものと考えられます。アルバムには他にも別府の居宅「春翠荘」の作庭に関わる写真が多く残されています。

【写真2】は、アルバムの台紙に「柳河沖端村」と記されている通り、沖端で開催された展覧会での記念写真です。壁面に飾られた絵画の前に並ぶのは出品者と関係者だと考えられます。前列左から3番目に写っているのが富安です。アルバム全体の構成から見て、昭和12から15年までの写真と考えられます。富安は転居してからも頻繁に柳川に帰省していて、柳川の美術界とつながりを持ち続けたことがこの写真から分かります。ただ残念ながら、関係資料である富安の日記や「柳河新報」でもこの展覧会の詳細は記されていません。

市史編集委員会では、数年後に写真を中心とした本を刊行する予定です。現在さまざまな写真や絵はがきなどを集めています。隔月1日号に、同委員会で集めた写真を紹介します。

【問】市生涯学習課市史編さん係 ☎72・1275

ひとを結ぶ。
まちを結ぶ。
column
No.97
地域おこし協力隊

大都市圏から地方へ人の流れを作り、将来の定住を目指しながら、地方の活性化への貢献を目指すプログラム「地域おこし協力隊」。市で活動する6人の隊員たちの活動を紹介します。

【問】市商工・ブランド振興課 ☎77・8722

休日は愛車に乗って柳川を探索



番組で作った「うなぎの白焼きサラダ仕立て」



自分の足で調べた柳川の魅力を発信

5月から地域おこし協力隊として柳川市に来て、約半年になりました。どの場所に何があるか、この地名は何と読むのかなど、最初は分からなかったモノやコトが今ではだんだんと分かってきました。最近は休日に自転車で買い物に出かけるついでに普段通らない道を通ったりして、「柳川を知る」ことを楽しんでいます。

7月から、「note」というサイトで柳川の魅力を発信しています。「note」は自分の好きなことを文章やイラスト、写真、動画など色々な形で手軽に発信、共有できるサービスです。柳川の魅力を広める上で、文章と写真の両方を使いたいと思っていた僕にはぴったりでした。自分の足で訪れて、直接聞いたり感じたりした魅力的なモノ・コトをこれからどんどん発信していきます。観光地だけでなく、市内企業の取り組みについて書いた記事もあるので、空き時間にでものぞいてみてください。



地域おこし隊

おいしいうなぎ料理で柳川をご紹介します

地域おこし協力隊に就任して2年目を迎えました。最近は「柳川の食の新たな特産品作り」の活動の一環として「うなぎ」をテーマに特産品の試作をしています。

先日、RKBの「タダイマ！」という番組で、柳川産のうなぎを使ったうなぎ料理を作るシーンの撮影に協力しました。白焼きのうなぎに、甘夏のソースやジェノベーゼソースを合わせてみたり、茶碗蒸しにのせてみたりと色々試した中から「うなぎの白焼きサラダ仕立て」を生放送で調理することに。満開に咲き誇った柳川ひまわり園で、とてもおいしいうなぎ料理を作ることができました。この番組を機に柳川に興味を持つ人が増えてほしいと思います。

地域の人と一緒に柳川を紹介したり、柳川産の食材を「おいしい」と言われて喜んだり、すっかり柳川市民になったなと感じています。まだまだ知らないことだらけなので、気軽に声をかけて教えてもらえるとうれしいです。



堤 康二郎 (22歳)

【プロフィール】市観光課に所属。観光プラットフォーム構築を担当



西濱 美穂 (46歳)

【プロフィール】市商工・ブランド振興課に所属。食の新たな特産品づくりを担当